

---

# もも缶、鮭缶、みかん缶

ロスタイル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

もも缶、鮭缶、みかん缶

### 【著者名】

N4492D

ロスタイル

### 【あらすじ】

他愛もない物に、喜びを感じられたひと昔前、今現在、つらや、苦しみがあふれている時代、食、物があふれ帰り、何に、喜びを求めていけばいいのだろう。

世の中グルメを自負する輩があふれ帰り、その手の食を評価する雑誌、グルメマップなるものが多数出版されていて、先日も海外のタイヤメークー監修による店をランク付けするような、グルメ冊子が出版されたが、本当に感動を覚え、満足し、一生忘れられなくなるようなおいしい物なのであるか？人それぞれ、価値観、生活感、食感のちがいから評価の分かれるのも理解できるが、私のような庶民には、一ヶ月に一回にせよ足が遠く及ばない。きっと店の敷居、格調の高む、まわりのハイソサエティーな常連に気圧され、まともに味わうことなどできず、店を後にすることが容易に想像することができる。そんな貧乏性な私にも、格安で、

「ああ！これはおいしい」と思つ物を延々と幼少氣より持つているそれは、ただの缶詰である。その中でも、もも缶、鮭感、みかん感はかくだんにだいじうぶつである。

もも缶、風邪を引いて熱を出した時、枕元でお袋が食べさせてくれた、もものしゃりしゃりした食感、甘い、甘いシロップをすり、子供ながらに熱が下がつてしまつ、風邪が治つてしまふんだと、少し複雑な思いを持っていた。鮭缶には、父親の思い出がある。酒飲みの父親だったので、テーブルには何かしら酒の肴がならんでいたが、自分の好む物がないと、必ず鮭缶をあけ、缶から直に橋でほじくるように食べていた。そんなある日、鮭缶の中骨を、

「いいから、食え、食つてみろ」と私の口の中に、それを放り込んできた。その言葉に黙つて、その得体の知れない物を奥歯でそつとかんでみた。子供にとって、未だ味わつたことのない、食感、なんておいしい物なのだろうと、陶酔した。未だに鮭缶も好きだが、中骨の缶詰めの方が好きになってしまった。

みかん缶、夏に冷蔵庫で凍らせて、兄弟で争い、むさぼり食べた。こんな他愛もないような缶詰一つ、一つに、幼少期の家族との思い出が

つまり、未だに忘れるのできない逸品である。今私は、理由があつて両親とあうこと�이できないが、家内とスーパーに買い物に行き缶詰を見ると家族との思い出がよみがえつてくる。

飽食の時代、私の子供たちはどんな物に思い出を見つけだしていくのだろう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4492d/>

---

もも缶、鮭缶、みかん缶

2010年11月20日03時46分発行